

平成24年度
平成23年度実施

事務事業評価調書

整理番号 2 - 15
作成年月日 H24. 7. 23
事業区分 ☒ 継続 ☐ 新規

事務事業名 敬老会祝金支給事業

事業開始年度 平成20年度 住民参加 ☐ 有 関係例規・法令名 興部町敬老祝金支給条例
事業終了年度 平成24年度 住民協働 ☒ 無 関係個別計画名

会計区分 一般会計 款 3. 民生費 項 1. 社会福祉費 目 2. 老人福祉費

担当 課 福祉保健課 担当係名 高齢者福祉係 調書作成者職氏名 係長 山田隆敏

【第五期興部町総合計画】 ☒ 登載事業 ☐ 非登載事業 実施計画登載No 92

分類	コード	名称
基本目標	3	生涯を支える“まちづくり”
施策項目	17	高齢者福祉の推進
単位施策	1	健康と生きがい対策の推進

I. 事業計画

(1) 対象	【事業の相手】 ※ 何を対象にまたは誰を対象にした事務事業なのか具体的に記載して下さい。 高齢の町民に対し、敬老祝金を支給し、長寿を祝福するとともに多年の労をねぎらい、あわせて町民の敬老思想の高揚をはかる。下記の節目の年を迎えた方に敬老祝金を支給する。 満70歳、喜寿（数え77歳）、傘寿（数え80歳）、米寿（数え88歳）、卒寿（数え90歳）、白寿（数え99歳）、満百歳
(2) 手段	【事業の概要】 ※ 目指すべき姿を実現するためにどのような手法で行うのか、事業の概要を具体的に記載して下さい。 満70歳以上の高齢者を招き敬老会を開催し、ご来賓列席のもと、町長から該当者に祝金を贈呈する。式典と文化連盟の協力のもと、アトラクションの催しを実施している。ボランティアの協力で、会場入場の介助を実施している。
(3) 目指す姿	【事業の成果】 ※ 事務事業を実施することでどのような状態にしたいのか具体的に記載して下さい。 長寿を祝い、長年の社会貢献に対し町として感謝の意を表する。

II. 指標【成果を判断する目標数値】

No	種別	内 容	区分	単位	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
1	対象指標	敬老祝金支給対象者	目標値 実績値	人	230 224	231 220	212 202	215 196	220
2	活動指標		目標値 実績値	回					
3	成果指標	敬老祝金支給額	目標値 実績値	千円	4,110 3,960	4,600 4,290	3,960 3,750	4,280 3,860	4,680
4			目標値 実績値						

III. 事業費の推移 (単位：千円)

区 分	19年度 決 算	20年度 決 算	21年度 決 算	22年度 決 算	23年度 決 算	24年度 予 算	20～24年度 合 計
事業費(千円)	3,490	3,960	4,290	3,750	3,860	4,680	20,960
財源内訳							
国庫支出金							0
道支出金							0
地方債							0
その他							0
一般財源	3,490	3,960	4,290	3,750	4,280	4,680	20,960

IV. 担当課による事務事業の評価

区 分	チェック項目の説明（内容）等
1. 実施の妥当性 (1) 町の政策的な事業である。 ☒ (2) 公共性が高い事業である。 ☐ (3) 緊急性が高い事業である。 ☐ (4) 法令等により実施が義務付けられている。 ☐ (5) その他 【具体的に記載】 ☐	町の発展に寄与された高齢者の多年の朗をねぎらうため、開始された制度である。寿命が延び、高齢者人口が増えたことや、財政上のことで、H12年度より改正して節目の年の贈ることにして条例の改廃をおこなっている。
2. 経済性・効率性 (1) 費用に見合う効果がある。 ☐ (2) コスト削減の余地がある。 ☐ (3) 受益者負担の余地がある。 ☐ (4) 補助制度等活用の可能性がある。 ☐ (5) その他 【具体的に記載】 ☒	敬老祝い金の是非を検討したこともあったが、社会情勢の変化によって生活費の足しとはならないが、助かっている人がいることも事実である。長年社会に貢献した方々への町からの感謝の微意であると思う。
3. 必要性 (1) 町民のニーズがある。（高い） ☐ (2) 事業を継続する必要がある。 ☒ (3) 類似事業との統合・再編の可能性がある。 ☐ (4) その他 【具体的に記載】 ☐	高齢者を取り巻く環境が厳しくなっており、町の財政状況に支障がないのであれば、高齢者を敬う姿勢として祝金を贈呈したほうが良いのではないかと。
4. 代替性 (1) 行政主体による実施が適当である。 ☒ (2) 民間委託等による実施が可能である。 ☐ (3) 住民協働（主体）による実施が可能である。 ☐ (4) その他 【具体的に記載】 ☐	町からの感謝の意であり、代替はできない。
5. 事業の達成度 (1) 期待どおりの成果があがっている。 ☐ (2) 概ね期待どおりの成果があがっている。 ☒ (3) 成果が不十分である。 ☐ (4) 事業の見直し等が必要である。 ☐ (5) その他 【具体的に記載】 ☐	児童手当等や保育所もない時代から、精一杯働いて尽力された方々もあり、節目節目に自分のためにと大半からは、喜ばれている。

特記事項

V. 一 次 評 価（所管課）、二 次 評 価（庁内評価委員会）

区 分	評 価	評 価 選 択 理 由 / 今 後 の 方 向 性
一 次 評 価	継 続 【現状維持】	高齢者を取り巻く環境が厳しくなっており、町の財政状況に支障がないのであれば、高齢者を敬う姿勢として祝金を贈呈した方が良いのではないかと。
二 次 評 価		二次評価対象外

VI. 外部意見（興部町総合計画策定審議会）

--	--

VII. 総合評価（町長、副町長、教育長）

最 終 評 価	評 価 選 択 理 由 / 今 後 の 方 向 性

☆ 評 価

- (1) 継 続 **【現状維持】** ⇒ 事業内容、事業量に大きな変動がなく、予算増減が少ないもの
 (2) 継 続 **【拡 充】** ⇒ 事業内容、事業量に相当程度の変動があり、予算増を伴うもの
 (3) 継 続 **【縮 小】** ⇒ 事業内容、事業量に相当程度の変動があり、予算減を伴うもの
 (4) 継 続 **【統 合】** ⇒ 事業内容の類似する事業に統合し、この事業を廃止するもの

- (5) 終 了 ⇒ 単年度事業、期間満了による事業の終了
 (6) 休 止 ⇒ 隔年度での事業実施などによる事業の休止
 (7) 廃 止 ⇒ この事業を廃止するもの